

# H30年度食品リサイクル推進マッチングセミナー

## 開催結果

## 開催日程

会場	プログラム	開催日時	開催場所	共同開催
札幌	セミナー	平成31年1月21日(月) ・午前の部:10:00~13:00 ・午後の部:14:00~15:10	北海道建設会館 9階大会議室	一般社団法人全国食品リサイクル連合会 「平成30年度飼料化事業推進セミナー」 (農林水産省補助事業)
	施設見学会	平成31年1月22日(火) 9:30~16:30	株式会社エコフィールド リサイクルファクトリー株式会社 (すべて北海道千歳市)	

## 事例発表者

会場	事例発表者名	
札幌	食品関連事業者	イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部 部長 金丸 治子 氏
	再生利用事業者	リサイクルファクトリー株式会社 会長 本村 孝幸 氏
	地方公共団体	北海道農政部 食の安全推進局 食品政策課 主幹(食育) 堀田 貴明 氏
		札幌市環境局 環境事業部 循環型社会推進課 ごみ減量推進担当 資源化推進係長 原 秀紀 氏

# 【札幌会場】セミナー（午前の部）…平成31年1月21日（月）10:00～13:00

## 事業者による先進的な食品リサイクル事例紹介

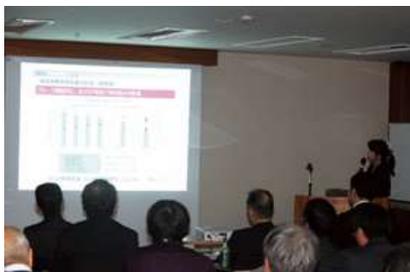
### 【食品関連事業者】イオン株式会社

#### 《講師》

イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部  
部長 金丸 治子 氏

#### 《事業内容》

- ・ イオングループでは、食品廃棄物を2025年までに発生原単位で50%削減（2015年度比）すること、グループ店舗や工場等で発生する食品廃棄物を堆肥化・飼料化して食品の生産に活用し、店舗での販売等を行う「食品資源循環モデル」を、2020年までに全国10か所（対象1,000店舗以上）で構築することを目標として掲げる。
- ・ 例えば、千葉県では、店舗等で発生した食品残渣を(有)ブライトピック千葉が飼料化し、飼料を用いて生産した豚肉をグループ店舗で販売。また、関西地区では店舗等で発生した食品残渣を大栄環境(株)が堆肥化し、イオンアグリ創造(株)が直営農場で野菜を生産して、グループ店舗で販売。



《金丸氏ご講演の様子》

### 【再生利用事業者】 リサイクルファクトリー株式会社

#### 《講師》

リサイクルファクトリー株式会社  
会長 本村 孝幸 氏

#### 《事業内容》

- ・ 食品メーカーで発生する食品加工残渣をはじめ、食品関連事業者・農業者から発生する動植物性残渣の堆肥化を行う。残渣の破砕・脱水を行った後、発酵舎で発酵させて堆肥化。堆肥は、農業生産法人ゆうきの里で有機農法による野菜の栽培に用いるほか、地域の農家の皆様に広く利用いただく等、有機資源の循環に力を入れている。
- ・ 食品リサイクル法上の登録再生利用事業者であり、また、優良産業廃棄物処理事業者の認定を受けている。



《本村氏ご講演の様子》

## 質疑応答・情報交換会

- ・ 質疑応答：講師と来場者の間で活発な質疑応答が行われた⇒一部、内容を後述
- ・ 情報交換会：今後の食品リサイクルの取組の推進、および食品リサイクルループの形成推進のため、本セミナーの来場者全員（約42名）で自由に名刺交換を行った。

# 【札幌会場】セミナー（午後の部）…平成31年1月21日（月）14:00～15:10

## 地方公共自治体による食品ロス削減の取組紹介

### 北海道

#### 《講師》

北海道農政部 食の安全推進局 食品政策課  
主幹（食育） 堀田 貴明 氏

#### 《取組内容》

- 平成28年11月から「どさんこ愛食食べきり運動」を展開し、企業・団体の広報誌やチラシへの運動の掲載、親子で食の大切さを学習できる絵本の作成、年末年始の外食時の食べきりキャンペーンの実施、余りがちの食材を活用する料理教室の開催など食品ロスの削減に向け、様々な取組を実施。
- 「どさんこ愛食食べきり運動」が幅広く浸透するよう、様々な主体と連携して取組を推進。



《堀田氏ご講演の様子》

### 札幌市

#### 《講師》

札幌市環境局 環境事業部 循環型社会推進課  
ごみ減量推進担当 資源化推進係長 原 秀紀 氏

#### 《取組内容》

- 家庭系食品ロスの削減のため「日曜日は冷蔵庫をお片付け。」キャンペーンを展開、整理収納アドバイザーと連携しながら、パンフレットの作成やセミナーの開催、ラジオ放送など、様々な媒体を活用して食品ロス削減につながる行動を呼びかけ。
- 組成調査を実施して家庭系食品ロスの実態把握を行っているほか、平成29年9月には市民モニター調査を行い、特に廃棄されやすい食品や、食品ロスの発生廃棄理由等を分析。



《原氏ご講演の様子》

## 質疑応答

- 質疑応答：講師と来場者の間で活発な質疑応答が行われた⇒一部、内容を後述

## 【札幌会場】セミナー 質疑応答（抜粋）

### 午前の部

#### 《質問》

- 食品リサイクルでは、堆肥化・飼料化を行ったとしても農家の方に堆肥・飼料を使ってもらえないという話をよく聞く。リサイクルファクトリー株式会社の製品は近隣の農家の方に人気があり、近隣の農家の方と有機野菜を生産されている。どのように農家の方との信頼関係を築いたのか。

#### 《回答》

（リサイクルファクトリー株式会社 本村氏）

- 地元の町内会へ毎月出席し、そこで情報交換を行っているため、私たちが作っている堆肥が安全であることを理解していただいている。ただ、北海道は家畜の数が多いため家畜糞が多く発生し、無料もしくはお金を渡して産廃業者に有価で引き取ってもらっている場合もある。価格の面から、私たちの堆肥を多く買ってもらうことは難しいというのが実情である。



《質疑応答の様子》

### 午後の部

#### 《質問》

- 4人世帯で食品ロスが年間約40 kg、23,000 円という点について、金額に置き換えて伝えることで、市民の方の反応・関心は高まるということはあるか。また、金額の算出方法を教えてほしい。

#### 《回答》

（札幌市 原氏）

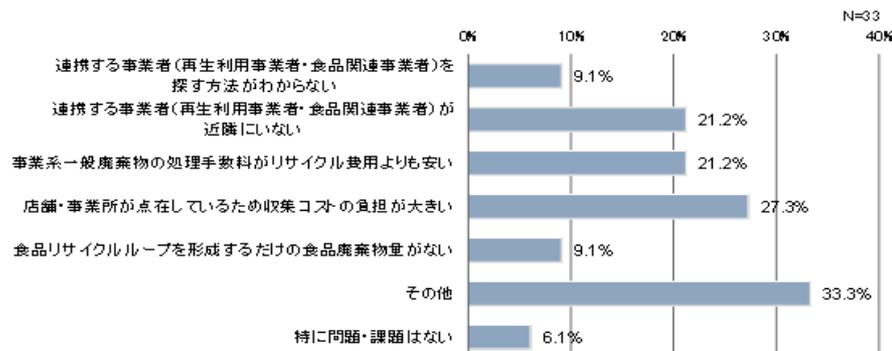
- 町内会の方などとお話しする機会もあるが、23,000円という数字を出す反応も良く、関心を持っていただける。金額の算出について、総務省の家計調査より札幌市民1人あたりの1年間の食費が約33万円、農林水産省より国民1人あたりの1年間の食品入手量が559kgとされており、以上のデータから札幌市民が1kgあたりにかける食品購入費用が590円とわかる。この数字に4人世帯での食品ロス量40kgをかけあわせると、およそ23,000円と算出できる。



《質疑応答の様子》

## 【札幌会場】セミナー 来場者アンケート結果（一部のみ）

### ■食品リサイクルの推進に当たっての問題・課題（午前の部）

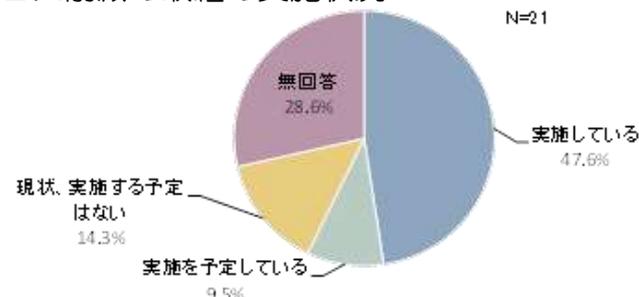


### 「その他」の自由記述内容（抜粋）

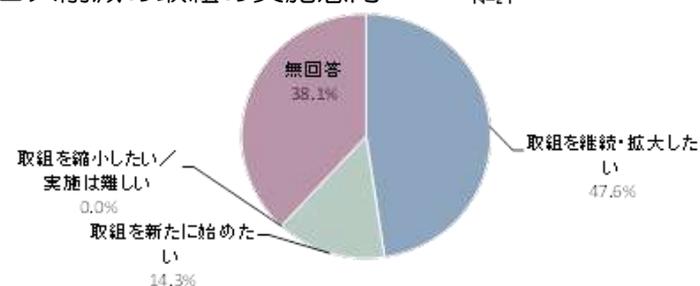
- ・排出事業者の分別意識の向上（異物混入の問題）
- ・飼料化の推進にあたり、含水率の低減に苦労している
- ・運搬してくれる業者がない
- ・需要者とのマッチングまたは販路の確保等
- ・発生する発酵残さの有効利用法

### ■食品リサイクル等の推進の取組（午後の部）

#### ①食品ロス削減の取組の実施状況



#### ②食品ロス削減の取組の実施意向



### ■セミナーの良かった点

- ・ 国、食品関連事業者、再生利用事業者と、それぞれ立場の違う方の話を聞くことができ、参考になった。札幌市、道の取組発表も大変ためになりました。明日からの仕事につながるヒントがたくさんありました。もっと具体的に聞きたいことも多くありました。（行政（市町村））
- ・ 事例が分かりやすく参考になった。食品リサイクル法の話があれば、全国の事例をお教えいただけると良いと思う。（行政（国・都道府県））
- ・ 食品関連事業者等が自ら主体となって食品リサイクルループ構築に取り組む場合、廃棄物業界、行政、生産者との連携が不可欠ですが、循環社会形成の観点から消費者側にはネガティブな印象を与えないための啓蒙普及のためのセミナー等も企画してください。（事業者側が対応すべきポイント等）（食品関連事業者）

# 【札幌会場】 施設見学会…平成31年1月22日（火） 9:30～16:30

	詳細
開催日時	平成31年1月22日（火）9:30～16:30 ※移動を含む
見学先	<p>①株式会社エコフィールド</p> <ul style="list-style-type: none"><li>所在地:北海道千歳市泉沢1007番地33</li><li>事業内容:エコフィールド認証を取得、また、食品リサイクルループ認定を道内で初めて取得</li></ul> <p>②リサイクルファクトリー株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"><li>所在地:北海道千歳市中央690番地1</li><li>事業内容:食品メーカーで発生する食品加工残渣をはじめ、食品関連事業者・農業者から発生する動植物性残渣の堆肥化を実施</li></ul>

※農林水産省の補助事業である「平成30年度飼料化事業推進セミナー」の一部として、一般社団法人全国食品リサイクル連合会が主導する形で開催

《①株式会社エコフィールドの見学の様子》



《②リサイクルファクトリー株式会社の見学の様子》

